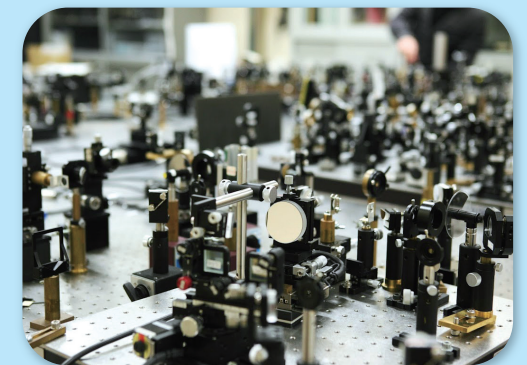
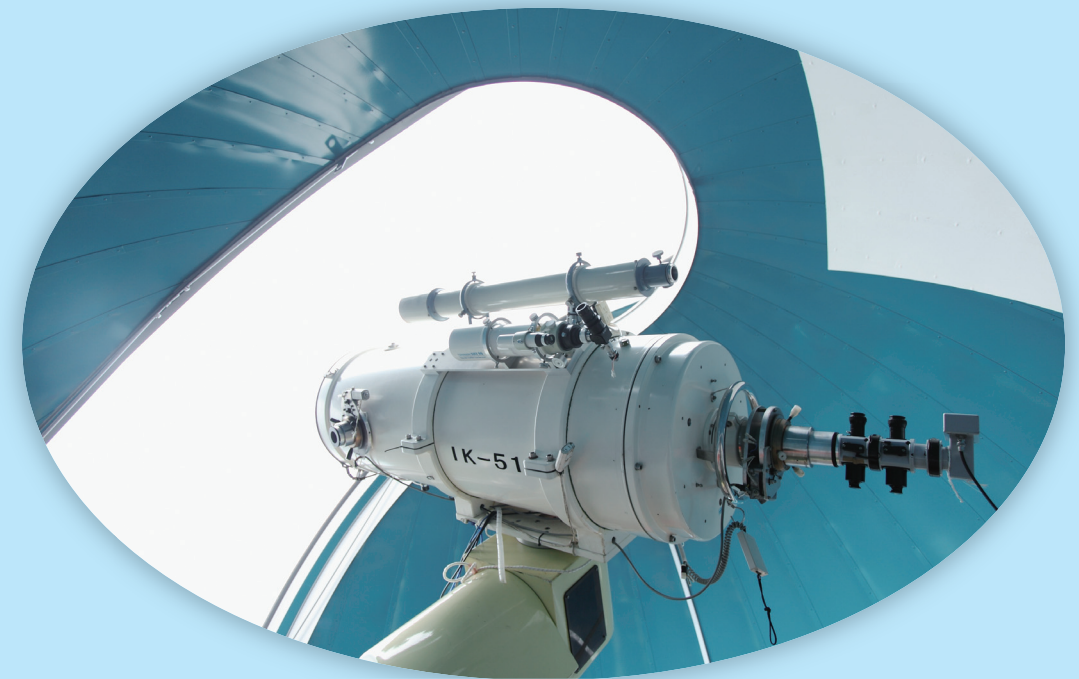


東北大学大学院理学研究科・ 理学部概要



GRADUATE SCHOOL OF SCIENCE
FACULTY OF SCIENCE

平成24年4月

目 次

概 要	1
沿 革	2
歴代学部長(研究科長)	6
歴代事務長(事務部長)	7
機 構	8
1 大 学 院	8
2 学 部	9
3 事 務 部	9
4 専攻及び講座	10
5 学科及び学科目	11
6 附属施設	12
職 員 数	12
学 生	13
1 学生定員及び現員	13
(1) 大学院学生	13
(2) 学部学生	14
(3) 研究生及び科目等履修生	15
2 平成 24 年度入学者選抜状況	15
(1) 大学院学生	15
(2) 学部学生	15
3 修了者及び卒業者	16
(1) 大学院修了者	16
(2) 学部卒業者	16
4 論文提出による博士の学位授与者	17
(1) 学位令に基づくもの	17
(2) 学位規則に基づくもの	17
5 平成 23 年度修了者及び卒業者進路状況	18
(1) 大学院修了者	18
(2) 学部卒業者	18
6 連携大学院方式	18
7 外国人留学生数	19

科学研究費等	20
1 グローバルCOE 平成 23 年度研究拠点形成費等補助金(研究拠点形成費(機関補助))	20
2 平成 23 年度科学研究費補助金採択状況	20
学 術 交 流	21
1 研究員等受入れ状況	21
2 外国人研究員等受入れ状況	21
3 部局間学術交流協定校	21
予 算	22
1 平成 23 年度予算額	22
機 械・器 具	22
標 本 等	22
1 標 本	22
2 実験生物系統保存	22
学術研究発表誌	22
土 地・建 物	23
施 設 所 在 図	28
理学研究科・理学部青葉山地区配置図	29

概 要

明治 40 年（1907 年）6 月 22 日に東北帝国大学の創立と共に、その分科大学とし理科大学が仙台に、農科大学が札幌に設定された。理学部は、この理科大学に端を発し、本学で最も長い伝統を持つ学部である。

明治 44 年（1911 年）、当時の内務大臣原敬の財政顧問であった古河虎之助並びに宮城県等からの寄付を基礎にして、片平地区に理科大学の建物群が竣工した。同年 9 月、先ず数学・物理学・化学の 3 学科が海外留学から帰朝した初代教授陣をもって発足し、次いで翌 45 年（1912 年）には地質学科が発足した。

大正 8 年（1919 年）理科大学は理学部となり、その後、大正 11 年（1921 年）の生物学科開設をはじめ学科、講座等も次第に拡充され、東京、京都と並ぶ日本の理学教育・研究の拠点として発展を重ねた。昭和 20 年（1945 年）7 月 10 日第 2 次世界大戦末の仙台大空襲によって建物の大部分が焼失するなど大きな被害を受けたが、戦後の学制改革により、昭和 24 年（1949 年）新制東北大学の理学部として再発足し、昭和 36 年（1961 年）までには建物も復興されて戦災の痛手から立ち直り、新しい発展の時代を迎えた。

昭和 28 年（1953 年）3 月に大学院理学研究科が設置され、数学、物理学、化学、地学、生物学及び地球物理学の 6 専攻が発足したが、昭和 32 年（1957 年）4 月に原子核理学専攻、昭和 33 年（1958 年）4 月に天文学専攻が設置された。更に昭和 37 年（1962 年）4 月及び昭和 39 年（1964 年）4 月に化学第二学科及び物理学第二学科がそれぞれ増設されたことに伴い、昭和 41 年（1966 年）4 月に化学第二専攻及び昭和 43 年（1968 年）4 月に物理学第二専攻が設置され、理学部・理学研究科の教育研究活動は質・量ともに大幅に拡充された。

昭和 44 年（1969 年）から同 54 年（1979 年）にかけて片平地区からの移転整備が推進され、青葉山地区に緑豊かなキャンパスが完成した。更に、平成 8 年（1996 年）から開始された物理研究実験棟の落成により、大きく姿を変えはじめている。当地は西に蔵王連峰を、東に仙台市街をはさんで遠く太平洋を望む高爽の地であり、研究と勉学にふさわしい環境に恵まれている。

平成 6 年～同 7 年（1994 年～1995 年）には、大学院理学研究科の重点化整備が行われ、それに伴い専攻の再編、大学院の大講座化、学部の大学科目化等が進められるとともに、大学院の学生定員が大幅に増員され、従来の理学部 1 部局から理学研究科及び理学部の 2 部局制となった。

現在 7 学科、7 学科目、6 附属教育・研究施設（1 学部内施設を含む。）、大学院理学研究科 6 専攻 28 講座（大講座）と学部収容定員 1,296 人、大学院収容定員博士前期課程 524 人、博士課程後期課程 390 人、教職員 368 人を擁し、我が国の理学部中最大級の規模を有している。

本研究科・学部は、創立以来我が国における理学の教育・研究の一大中心として、17,926 人の学士、8,743 人の修士及び 2,714 人の博士など多くの人材を世に送り、すぐれた研究業績を挙げ社会に貢献してきた。特に、研究尊重の精神は創立以来今日に至るまで絶えることなく受け継がれている。世界のトップレベルにある研究者達が、純理論的研究から様々な新しいアイデアによる実験的研究に至るまで活発な研究活動を展開しており、これら先端研究は極めて多彩である。

一方、大正 2 年（1913 年）に我が国で初めて女子学生の入学を許可するなど、広く内外に門戸を開き、教育・研究を通じて国内及び国際交流も極めて盛んである。多くの教職員・学生の海外への派遣及び外国人留学生、外国人研究者の受入れあるいは国際共同研究の実施や国際学会の主催等が日常的に行われており、理学研究科・理学部の教育・研究内容は国際的にも高い評価を受けている。

沿 革

明	40.	6	勅令第 236 号により仙台の理科大学及び札幌の農科大学の 2 分科大学をもって東北帝国大学として創立
／	43.	12	省令第 35 号により、明治 44 年 1 月 1 日理科大学開設公示
／	44.	3	省令第 12 号により、数学、物理学、化学及び地質学の 4 学科を置く。前 3 学科は同年 9 月 11 日開講
／	44.	4	初代理科大学長小川正孝（化学）就任
／	45.	8	向山に附属観測所設置
／	45.	9	省令第 10 号により地質学科開講
大	4.	8	臨時理化学研究所設置
／	6.	9	省令第 10 号により応用化学科設置
／	8.	4	勅令第 13 号により理科大学は理学部となる。
／	8.	6	2 代学部長林 鶴一（数学）就任、工学部設立とともに応用化学科は工学部に所属換となる。
／	9.	9	勅令第 395 号により地球物理学講座及び鉄鋼学講座設置
／	11.	8	省令第 26 号により生物学科設置
／	11.	12	臨時理化学研究所廃止
／	12.	4	文部省告示第 263 号により第九臨時教員養成所が東北大学に附設、数学科、物理化学科を置く。
／	12.	6	3 代学部長日下部四郎太（物理）就任
／	13.	7	勅令第 157 号により青森市浅虫に附属臨海実験所設置 4 代学部長に藤原松三郎（数学）就任
／	13.	8	地質学科が地質学古生物学（現在の地圏環境科学科）及び岩石鉱床学（現在の地球惑星物質科学科）の 2 学科に分離
／	15.	7	5 代学部長に真島利行（化学）就任
昭	3.	7	6 代学部長に小林 巖（物理）就任
／	4.	4	青森市酸ヶ湯に附属八甲田山植物実験所設置
／	7.	3	文部省告示第 81 号により第九臨時教員養成所廃止
／	9.	9	勅令第 274 号により天文学講座設置
／	11.	7	7 代学部長窪田忠彦（数学）就任
／	14.	3	8 代学部長藤原松三郎（数学）再任
／	15.	10	9 代学部長小林 巖（物理）再任
／	17.	2	文部省告示第 54 号により仙台臨時教員養成所数学科設置
／	20.	1	地球物理学科設置
／	20.	4	勅令第 24 号により地球物理学が物理学教室から分離、独立教室（現在の宇宙地球物理学科）となる。
／	20.	6	勅令第 372 号により地理学講座（現在の地圏環境科学科）設置
／	21.	4	勅令第 205 号により帝国大学官制公布、同時に東北帝国大学官制廃止 このときにおける講座数、定員数は以下のとおりである。

昭 21. 4	講座数 36、教授 36、助教授 29、助手 49、事務官 2 地理学科設置（現在の地圏環境科学科）
◇ 21. 10	10 代学部長高橋純一（岩石）就任
◇ 22. 4	女川に附属女川地震津波地磁気観測所設置
◇ 22. 9	政令第 204 号により東北帝国大学は東北大学に改められた。
◇ 23. 3	仙台臨時教員養成所廃止
◇ 24. 3	11 代学部長山田光雄（物理）就任
◇ 24. 4	福島県猪苗代町翁島に附属開発地理学研究所設置
◇ 24. 5	法律第 150 号により学制改革に伴い国立学校設置法が公布され、新制大学が発足・同時に帝国大学官制廃止、あらたに国立大学として東北大学が設置され、理学部には数学科、物理学科、化学科、地学科地学第一、地学科地学第二、地学科地学第三、生物学科、天文及び地球物理学科第一並びに天文及び地球物理学科第二が置かれた。
◇ 26. 4	12 代学部長渡辺萬次郎（岩石）就任
◇ 27. 3	附属観測所が法律第 22 号により附属地震観測所となる。
◇ 28. 3	政令第 51 号により大学院理学研究科設置
◇ 28. 4	省令第 9 号により地学科地学第三は、地学科地理学となる。
◇ 28. 5	文部省告示第 41 号により理学研究科に数学、物理学、化学、地学、生物学及び地球物理学の 6 専攻を置く。
◇ 29. 9	省令第 23 号により本学部に置かれる講座の種類及び数が定められた。即ち、数学 5 講座、物理学 5 講座、鉄鋼学 3 講座、化学 5 講座、量子化学 1 講座、地質学 2 講座、古生物学 1 講座、岩石鉱物学 2 講座、鉱床学 2 講座、地理学 1 講座、生物学 6 講座、天文学 1 講座及び地球物理学 3 講座が設置された。
◇ 30. 3	13 代学部長藤瀬新一郎（化学）就任
◇ 32. 4	宮城県蔵王町遠刈田に附属遠刈田夜光観測所設置 省令第 7 号により附属女川地震津波地磁気観測所が官制化され理学部附属地磁気観測所となる。 理学研究科原子核理学専攻設置
◇ 33. 4	理学研究科に天文学専攻設置 仙台市青葉区川内に附属青葉山植物園設置
◇ 35. 4	省令第 6 号により植物園（従来の青葉山植物園）が官制化され理学部附属となる。
◇ 37. 4	省令第 11 号により化学第二学科設置 14 代学部長元村 勲（生物）就任
◇ 39. 2	省令第 3 号により数学科改称
◇ 39. 4	省令第 12 号により物理学第二学科設置
◇ 40. 3	省令第 17 号により秋田県に附属能代地殻変動観測所設置
◇ 40. 12	15 代学部長山本義一（地球物理）就任
◇ 41. 4	省令第 22 号により附属地震観測所は附属青葉山地震観測所に、附属能代地殻変動観測所は附属秋田地殻変動観測所に改正、八甲田山植物実験所が官制化され理学部附属となる。また、省令同号により仙台市太白区富沢に附属原子核理学研究施設、秋田県本荘市に附属本荘地震観測所新設、理学研究科に化学第二専攻設置

昭	42.	5	省令第 11 号により岩手県三陸町に附属三陸地殻変動観測所設置 省令第 13 号により学科序列のうち天文及び地球物理学科第一、同第二が物理学第二学科の次に入ることにより改正された。
／	43.	4	理学研究科に物理学第二専攻設置
／	44.	3	16 代学部長加藤陸奥雄（生物）就任
／	44.	6	省令第 18 号により岩手県遠野市に附属北上地震観測所設置
／	46.	3	省令第 13 号により仙台市青葉区荒巻字青葉（以下「青葉山地区」と略称）に附属泡箱写真解析施設設置
／	46.	6	16 代加藤学部長が学長に就任、17 代学部長鈴木次郎（地球物理）就任
／	48.	4	省令第 10 号により附属超高層物理学研究施設が設置され、夜光観測所が附属超高層蔵王観測所となる。
／	49.	4	省令第 13 号により仙台市青葉山地区に附属地震予知観測センター設置
／	49.	6	18 代学部長森田 章（物理）就任
／	51.	6	19 代学部長武田 暁（物理）就任
／	53.	4	省令第 10 号により仙台市青葉山地区に附属化学機器分析センター設置
／	54.	3	省令第 8 号により仙台市青葉山地区に附属超低温実験施設設置 開発地理学研究所を福島県猪苗代町翁島より同県猪苗代町芹沢に移転し、新設
／	54.	6	20 代学部長伊東 徹（化学二）就任
／	55.	3	省令第 5 号により青葉山地区に附属光エネルギー化学実験施設設置
／	57.	3	附属超高層物理学研究施設が青葉山地区に設置された。
／	57.	6	21 代学部長武田 暁（物理）再任
／	60.	6	22 代学部長小西和彦（生物）就任
／	61.	3	省令第 12 号により附属超低温実験施設が廃止され、附属極微小エネルギー物理学実験施設が設置
／	61.	10	植物園記念館が附属植物園内に建設された。
／	62.	3	省令第 10 号により附属光エネルギー化学実験施設が廃止
／	62.	5	省令第 17 号により附属青葉山地震観測所が廃止され、附属地震予知観測センターが附属地震予知・噴火予知観測センターに改められ、附属有機ケイ素材料化学実験施設が青葉山地区に設置された。
／	63.	6	23 代学部長黒田 正（数学）就任
平	元.	5	省令第 24 号により附属秋田地殻変動観測所及び附属本荘地震観測所が附属日本海地域地震観測所に改められた。
／	2.	4	24 代学部長櫻井英樹（化学）就任
／	2.	6	省令第 15 号により附属大気海洋変動観測研究センター設置
／	2.	10	数理科学記念館が青葉山地区に建設された。
／	3.	4	省令第 19 号により附属三陸地殻変動観測所及び附属北上地震観測所が附属三陸地域地震観測所に改められた。
／	4.	4	省令第 9 号により天文及び地球物理学科第一、天文及び地球物理学科第二を宇宙地球物理学科に、地学科地学第一、地学科地理学を地圏環境科学科に、地学科地学第二を地球物質科学科に改称
／	5.	4	25 代学部長田中正之（大気海洋）就任
平	6.	4	省令第 8 号により物理学第二学科が物理学科に統合・改組

平	6.	4	省令第9号により理学研究科物理学専攻、天文学専攻、地球物理学専攻及び地学専攻が整備（重点化）
／	7.	4	省令第10号により化学第二学科が化学科に統合・改組 省令第10号により理学研究科学専攻、化学専攻及び生物学専攻が整備（全専攻が重点化）
／	7.	10	自然史標本館設置
／	8.	3	附属極微量エネルギー物理学実験施設が時限到来により廃止（東北大学低温センターと統合改組し、東北大学極低温科学センター設置）
／	8.	4	26 代学部長・研究科長荻野 博（化学）就任
／	8.	5	省令第18号により附属有機ケイ素材料化学実験施設廃止（反応化学研究所附属有機資源・材料化学研究センターに統合・改組）
／	8.	5	附属植物園本館が建設された。
／	9.	4	省令第13号により、附属地震予知・噴火予知観測センター、附属日本海地域地震火山観測所及び附属三陸地域地震火山観測所が附属地震・噴火予知研究観測センターへ統合・改組
／	10.	4	省令第21号により、附属泡箱写真解析施設が研究科附属ニュートリノ科学研究センターに改組・転換 省令第21号により、附属核理学研究施設、附属超高層物理学研究施設、附属地磁気観測所、附属地震・噴火予知研究観測センター、附属大気海洋変動観測研究センター及び附属化学機器分析センターが研究科附属施設に転換
／	11.	4	省令第12号により、附属超高層物理学研究施設、附属地磁気観測所が附属惑星プラズマ・大気研究センターへ統合・改組 省令第12号により、附属臨海実験所、附属植物園、附属八甲田山植物実験所が研究科附属施設に転換 27 代学部長・研究科長佐藤 繁（物理）就任
／	12.	4	省令第11号により大気海洋変動観測研究センター時限により廃止・新設
／	13.	4	政令第151号により理学研究科生物学専攻が生命科学研究科に転換
／	14.	4	28 代学部長・研究科長 鈴木厚人（附属ニュートリノ科学研究センター）就任
／	14.	12	国際交流推進室設置
／	16.	4	国立大学法人法（平成15年法第112号）により、東北大学は国立大学法人東北大学となった。
／	16.	4	附属化学機器分析センターを附属巨大分子解析研究センターに改組・整備
／	16.	4	附属臨海実験所を附属浅虫海洋生物学研究センターに名称変更
／	16.	4	附属八甲田山植物実験所は附属植物園と統合し八甲田山分園とした
／	17.	4	29 代学部長・研究科長 橋本治（物理）就任
／	17.	4	附属浅虫海洋生物学研究センターが廃止され、生命科学研究科附属に移行した。 附属植物園が廃止され、学内共同教育研究施設へ移行した。
／	20.	4	地球物質科学科を地球惑星物質科学科に名称変更 30 代学部長・研究科長 花輪公雄（地球物理）就任
／	21.	12	附属原子核理学研究施設及び附属ニュートリノ科学研究センターが廃止され、学内共同教育研究施設へ移行した。 附属開発地理学研究所が廃止された。
／	23.	4	31 代学部長・研究科長 福村裕史（化学）就任

歴代学部長（研究科長）

歴 代	氏 名	学 科 等	期 間	備 考
初 代	小 川 正 孝	化 学	明 44. 4.25～大 8. 3.31	理科大学長
			大 8. 4. 1～大 8. 6.29	理学部長
2 代	林 鶴 一	数 学	大 8. 6.30～大 12. 6.29	
3 代	日下部 四郎太	物 理	大 12. 6.30～大 13. 7. 3	大 13.7.3 死去、林前学部長が学部長代理となる。
4 代	藤 原 松三郎	数 学	大 13. 7.25～大 15. 7.24	
5 代	真 島 利 行	化 学	大 15. 7.25～昭 15. 7.24	
6 代	小 林 巖	物 理	昭 3. 7.25～昭 11. 7.24	
7 代	窪 田 忠 彦	数 学	昭 11. 7.25～昭 14. 3.30	
8 代	藤 原 松三郎	数 学	昭 14. 3.31～昭 15.10. 4	
9 代	小 林 巖	物 理	昭 15.10. 5～昭 21.10. 4	
10 代	高 橋 純 一	岩 石	昭 21.10. 5～昭 24. 3.30	
11 代	山 田 光 雄	物 理	昭 24. 3.31～昭 26. 3.31	
12 代	渡 辺 萬次郎	岩 石	昭 26. 4. 1～昭 30. 3.30	
13 代	藤 瀬 新一郎	化 学	昭 30. 3.31～昭 37. 3.31	
14 代	元 村 勲	生 物	昭 37. 4. 1～昭 40.11.30	
15 代	山 本 義 一	地球物理	昭 40.12. 1～昭 44. 3.31	
16 代	加 藤 陸奥雄	生 物	昭 44. 4. 1～昭 46. 4.30	
17 代	鈴 木 次 郎	地球物理	昭 46. 6.10～昭 49. 6. 9	前学部長、学長就任のため昭 46.5.1～46.6.9 学部長事務取扱となる。
18 代	森 田 章	物 理	昭 49. 6.10～昭 51. 6. 9	
19 代	武 田 暁	物 理	昭 51. 6.10～昭 54. 6. 9	
20 代	伊 東 檉	化 学 二	昭 54. 6.10～昭 57. 6. 9	
21 代	武 田 暁	物 理	昭 57. 6.10～昭 60. 6. 9	
22 代	小 西 和 彦	生 物	昭 60. 6.10～昭 63. 6. 9	
23 代	黒 田 正	数 学	昭 63. 6.10～平 2. 3.31	
24 代	櫻 井 英 樹	化 学	平 2. 4. 1～平 5. 3.31	
25 代	田 中 正 之	大気海洋	平 5. 4. 1～平 8. 3.31	
26 代	荻 野 博	化 学	平 8. 4. 1～平 11. 3.31	学部長・研究科長
27 代	佐 藤 繁	物 理	平 11. 4. 1～平 14. 3.31	学部長・研究科長
28 代	鈴 木 厚 人	ニュートリノ	平 14. 4. 1～平 17. 3.31	学部長・研究科長
29 代	橋 本 治	物 理	平 17. 4. 1～平 20. 3.31	学部長・研究科長
30 代	花 輪 公 雄	地球物理	平 20. 4. 1～平 23. 3.31	学部長・研究科長
31 代	福 村 裕 史	化 学	平 23. 4. 1～	学部長・研究科長

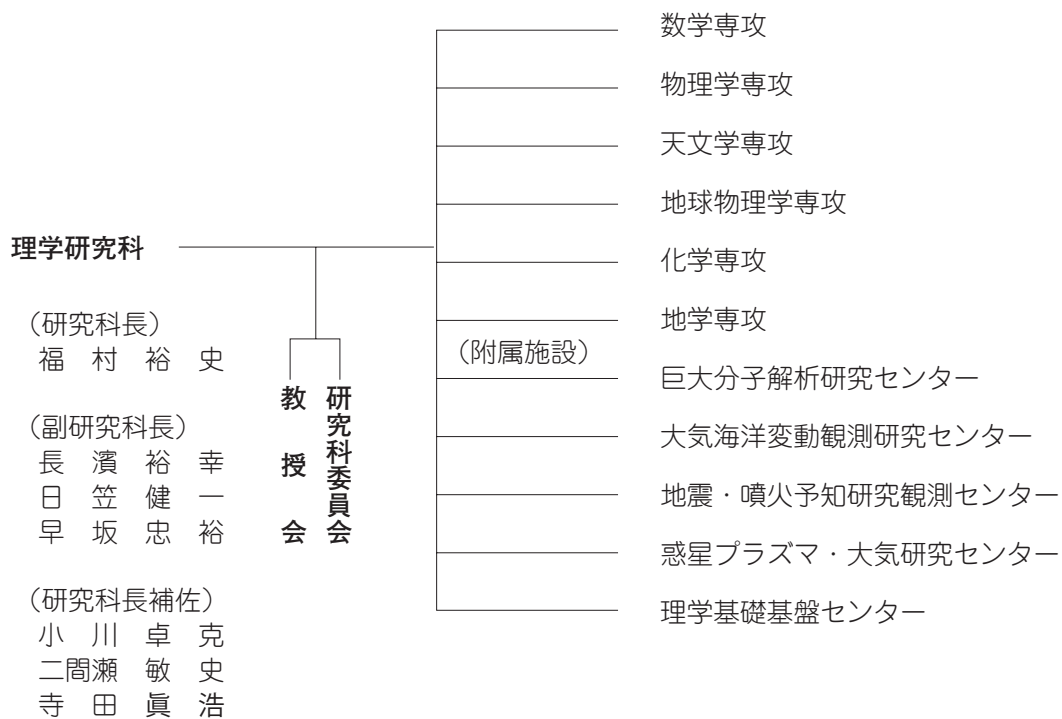
歴代事務長（事務部長）

氏 名	期 間	備 考
山 本 順 恵	昭 24. 5.31～昭 25. 6.28	
柴 田 大 三	昭 25. 8.15～昭 27. 6.30	
曾 我 鉦 司	昭 27. 7. 1～昭 37. 6.30	
萱 場 利 春	昭 37. 7.16～昭 43. 3.31	
山 田 利 雄	昭 43. 4. 1～昭 47. 3.31	
武 田 松 一	昭 47. 4. 1～昭 52. 3.31	
阿 部 栄 一	昭 52. 4. 1～昭 54. 3.31	
汲 川 六 郎	昭 54. 4. 1～昭 55. 3.31	
洞 口 英 夫	昭 55. 4. 1～昭 59. 3.31	
桃 井 辰一郎	昭 59. 4. 1～昭 63. 3.31	
大 場 隆 志	昭 63 4. 1～平 2. 3.31	
酒 井 良 樹	平 2. 4. 1～平 3. 3.31	
猪 狩 勉	平 3. 4. 1～平 6. 3.31	
阿 部 経 三	平 6. 4. 1～平 8. 3.31	
金 田 一 夫	平 8. 4. 1～平 11. 3.31	
大 森 光 徳	平 11. 4. 1～平 14. 3.31	
長谷川 征 喜	平 14. 4. 1～平 15. 3.31	
荒 井 勝 則	平 15. 4. 1～平 17. 6.30	
渋谷 幸 雄	平 17. 7. 1～平 19. 3.31	
工 藤 昌 秋	平 19. 4. 1～平 21. 3.31	
影 山 洋 正	平 21. 4. 1～平 22. 3.31	
影 山 洋 正	平 22. 4. 1～平 24. 3.31	事務部長
石 田 秀 明	平 24. 4. 1～	

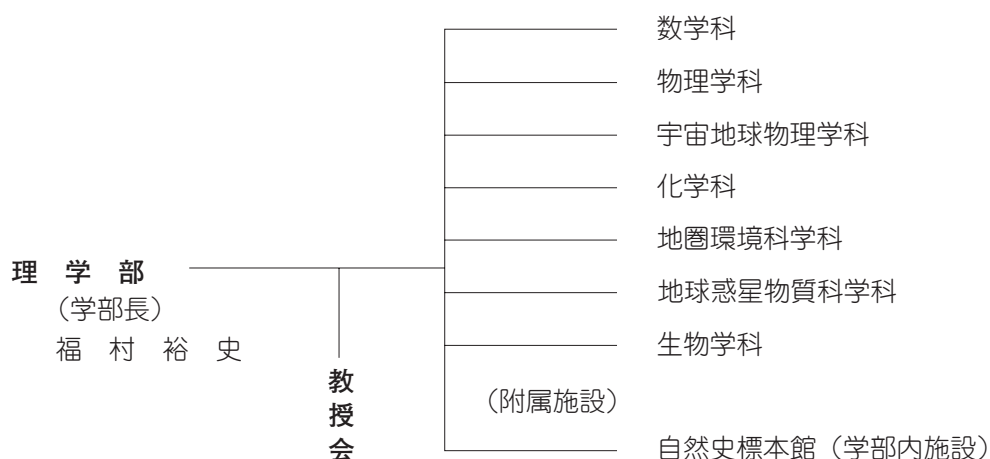
機 構

1 大 学 院

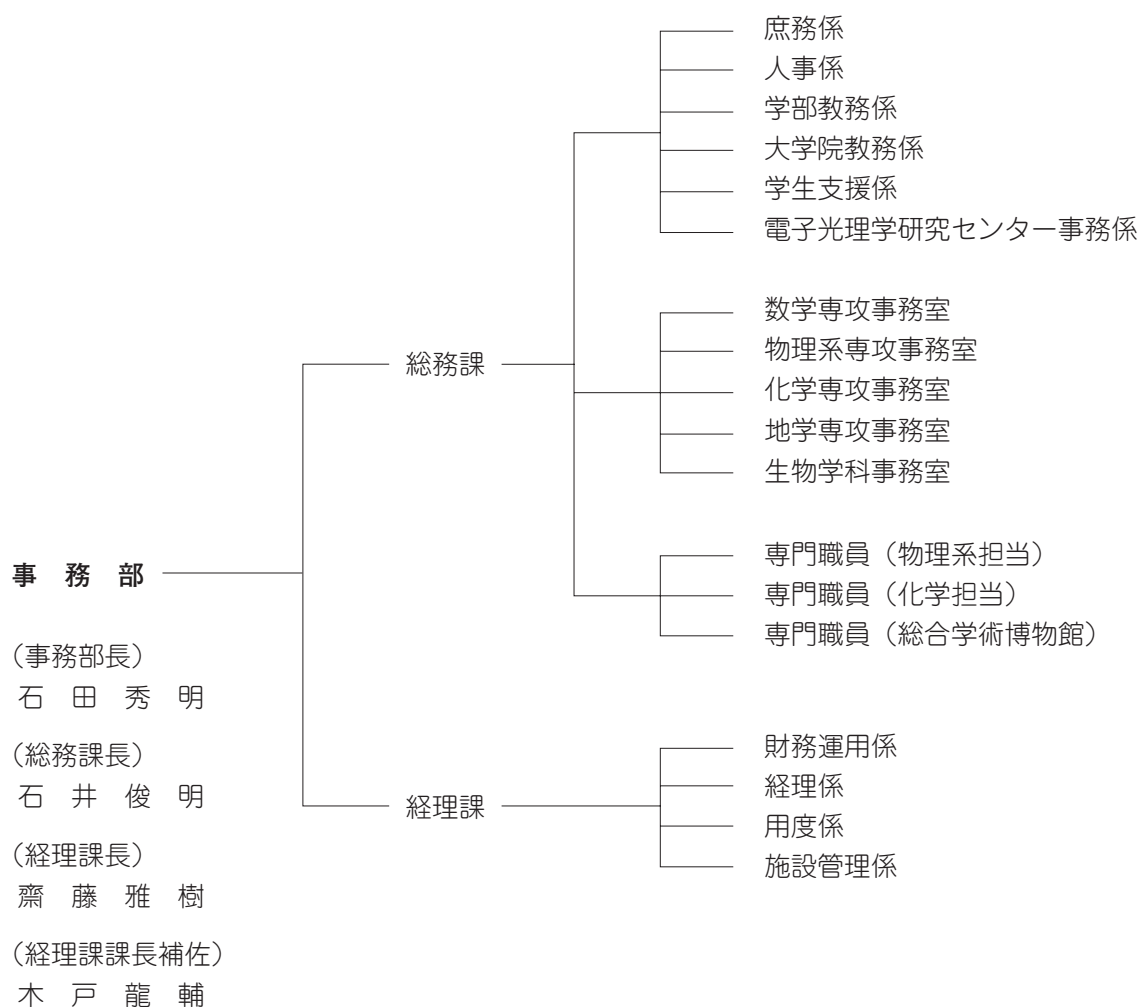
(博士課程)



2 学 部



3 事 務 部



4 専攻及び講座（理学研究科）

専攻・講座名（講座数：28）	専攻設置年	専 攻 長	備 考
数学専攻（5 講座） 代 数 学 講 座 幾 何 学 講 座 解 析 学 講 座 多 様 体 論 講 座 応 用 数 理 講 座	昭 28	宮 岡 礼 子	
物理学専攻（7 講座） 量 子 基 礎 物 理 学 講 座 素 粒 子 ・ 核 物 理 学 講 座 電 子 物 理 学 講 座 量 子 物 性 物 理 学 講 座 固 体 統 計 物 理 学 講 座 相 関 物 理 学 講 座 領 域 横 断 物 理 学 講 座	昭 28	川 勝 年 洋	
天文学専攻（2 講座） 天 文 学 講 座 理 論 天 体 物 理 学 講 座	昭 33	市 川 隆	
地球物理学専攻（4 講座） 固 体 地 球 物 理 学 講 座 太 陽 惑 星 空 間 物 理 学 講 座 流 体 地 球 物 理 学 講 座 地 球 環 境 物 理 学 講 座	昭 28	岩 崎 俊 樹	
化学専攻（5 講座） 無 機 ・ 分 析 化 学 講 座 有 機 化 学 講 座 物 理 化 学 講 座 境 界 領 域 化 学 講 座 先 端 理 化 学 講 座	昭 28	磯 部 寛 之	

専攻・講座名	専攻設置年	専攻長	備考
地学専攻（5講座） 地圏進化学講座 環境地理学講座 地球惑星物質科学講座 環境動態論講座 比較固体惑星学講座	昭 28	今 泉 俊 文	

5 学科及び学科目

学 科 名	学 科 目 名	学科設置年	学 科 長 及 び 学 科 委 員
数 学 科	数 学	明 44	学 科 長：宮 岡 礼 子 学科委員：宮 岡 礼 子 ・板 東 重 稔
物 理 学 科	物 理 学	明 44	学 科 長：川 勝 年 洋 学科委員：川 勝 年 洋 ・谷 垣 勝 己 小 林 俊 雄
宇宙地球物理学科	宇宙地球物理学	大 9	学 科 長：市 川 隆 学科委員：市 川 隆 ・岩 崎 俊 樹
化 学 科	化 学	明 44	学 科 長：磯 部 寛 之 学科委員：磯 部 寛 之 ・岩 本 武 明
地圏環境科学科	地圏環境科学	明 44	学 科 長：今 泉 俊 文 学科委員：今 泉 俊 文 ・海 保 邦 夫
地球惑星物質科学科	地球惑星物質科学	明 44	学 科 長：掛 川 武 学科委員：掛 川 武
生 物 学 科	生 物 学	大 11	学 科 長：渡 邊 直 樹 学科委員：渡 邊 直 樹

（備考） 平成 6 年度より、物理学第二学科は物理学科に、平成 7 年度より、化学第二学科は化学科に、それぞれ統合・改組された。

6 附属施設

(1) 研究科附属

施設・部門名	設置年	施設の長	備考
巨大分子解析研究センター	昭 53	寺 田 眞 浩	
大気海洋変動観測研究センター (4 研究部)	平 12	青 木 周 司	
大 気 変 動 研 究 部	〃		
海 洋 変 動 研 究 部	〃		
熱 流 量 研 究 部	平 3		
大 気 海 洋 環 境 研 究 部	〃		
地震・噴火予知研究観測センター (3 研究部)	昭 62	海 野 徳 仁	
地 震 予 知 観 測 研 究 部	〃		
火山噴火予知観測研究部	〃		
海 域 総 合 観 測 研 究 部	平 9		
惑星プラズマ・大気研究センター (2 研究部)	平 11	小 原 隆 博	
惑 星 電 波 観 測 研 究 部	〃		
惑 星 分 光 観 測 研 究 部	〃		

(2) 学部附属

施設名	設置年	施設の長	備考
自 然 史 標 本 館	平 7	西 弘 嗣	

職 員 数

(平 24. 4. 1現在)

区 分	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	事務職員	技 術 系 員	計
客 員	(1)	(1)						(2)
連 携	(7)	(4)						(11)
委 嘱	(8)	(5)						(13)
計	74	78	6	105	4	59	42	368

※() 書きは外数で、客員2名及び連携委嘱24名(教授15名、准教授9名)を示す。

休職者、再雇用職員及び外部資金等により雇用する任期付常勤教員を含む。

学 生

1 学生定員及び現員

(1) 大学院学生

(平 24. 5. 1現在)

専 攻	区 分	前 期 2 年 の 課 程						後 期 3 年 の 課 程					
		1 年		2 年		計		1 年		2 年		3 年	
		定 員		現 員		定 員		定 員		現 員		定 員	
		現 員	計	定 員	現 員	計	現 員	定 員	現 員	定 員	現 員	定 員	計
数 学 専 攻		38	36	38	53	89	18	9	18	18	12	54	39
物 理 学 専 攻		91	67	91	112	179	46	20	46	27	46	138	93
天 文 学 専 攻		9	7	9	15	22	4	5	4	2	4	12	12
地 球 物 理 学 専 攻		26	26	26	32	58	13	2	13	11	12	39	25
化 学 専 攻		66	74	66	83	157	33	23	33	20	45	99	88
地 学 専 攻		32	36	32	43	79	16	13	16	5	6	48	24
計		262	246	262	338	584	130	72	130	83	126	390	281

(2) 学部学生

(平 24. 5. 1現在)

	1 年 年		2 年 年		3 年 年		4 年 年		計	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
数 学 科	45	45	45	47	45	50	45	65	180	207
物 理 系	78	122	78	116	78	78 3	78	111 2	312	517
	41		41		41		41		164	
化 学 科	70	68	70	70	70	75	70	85	280	298
地 球 科 学 系	30	55	30	53	30	25	30	31 1	120	216
	20		20		20	25	20		80	
生 物 学 科	40	43	40	42	40	43	40	45	160	173
計	324	333	324	328	324	339	324	411	1,296	1,411

(3) 研究生及び科目等履修生

(平 24. 5. 1現在)

	研 究 生	科目等履修生	特別聴講学生	特別研究学生
学 部	4	6	13	
大 学 院	8	1	2	7

2 平成23年度入学者選抜状況

(1) 大学院学生

区 分 専 攻	前 期 2 年 の 課 程				後 期 3 年 の 課 程			
	募 集 人 員	志 願 者 数	志 願 倍 率	入 学 者 数	募 集 人 員	進 学 者 数	編入学 者 数	合 計
数 学 専 攻	38	59(3)	1.55	45(3)	18	15(2)	3	18(2)
物 理 学 専 攻	91	109(7)	1.20	93(6)	46	23(4)	5(1)	28(5)
天 文 学 専 攻	9	23	2.56	11	4	2	0	2(0)
地球物理学専攻	26	49(1)	1.88	29(1)	13	10(3)	1	11(3)
化 学 専 攻	66	87(6)	1.32	73(6)	33	11(3)	10(5)	21(8)
地 学 専 攻	32	42	1.31	35	16	6(1)	0	6(1)
計	262	369(17)	1.41	286(16)	130	67(13)	19(6)	86(19)

() 内は、外国人留学生で、内数である。

(2) 学部学生

区 分		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数
一 般 選 抜	前 期 日 程	222	547 ○2 ☆1	2.5	539 ○2 ☆1	237 ○2 ☆1	231 ○1 ☆1
	後 期 日 程	58	854	14.7	444	66	50
A O 入 試 II 期		44	◎1 107	2.4	◎1 107	◎1 49	◎1 49
計		324	1,508 ◎1○2 ☆1	4.7	1,090 ◎1○2 ☆1	352 ◎1○2 ☆1	330 ◎1○1 ☆1

◎印は、科学オリンピック入試で、外数である。(定員内)

○印は、私費外国人留学生で、外数である。(定員内)

☆印は、政府派遣留学生で、外数である。(定員外)

3 修了者及び卒業者

(1) 大学院修了者

専攻	前期2年の課程			後期3年の課程※		
	昭30.3～ 平23.3	平23.4～ 平24.3	計	昭30.3～ 平23.3	平23.4～ 平24.3	計
数 学 専 攻	804	32	836	98	12	110
物 理 学 専 攻	1,978	79	2,057	490	22	512
物 理 学 第 二 専 攻	371	0	371	111	0	111
原 子 核 理 学 専 攻	397	0	397	209	0	209
天 文 学 専 攻	254	12	266	111	2	113
地 球 物 理 学 専 攻	835	25	860	213	7	220
化 学 専 攻	1,832	68	1,900	687	17	704
化 学 第 二 専 攻	505	0	505	190	0	190
地 学 専 攻	904	34	938	289	13	302
生 物 学 専 攻	613	0	613	243	0	243
計	8,493	250	8,743	2,641	73	2,714

※東北大学大学院通則第34条第3項による修了者を含む。

(2) 学部卒業者

設置区分 学 科	東 北 帝 国 大 学		東 北 大 学			
	理科大学	理 学 部	理学部(旧制)	理 学 部 (新 制)		合 計
	大3. 7～ 大7. 12	大8. 6～ 昭22. 9	昭23. 3～ 昭29. 3	昭28. 3～ 平9. 3	平9. 4～ 平24.3	
数 学 科	23	404	117	1,564	665	2,346
物 理 学 科	35	418	141	1,600	1,131	2,872
物 理 学 第 二 学 科				1,083	2	1,085
宇宙地球物理学科 (天文分野) 天文地球物理学科第一				316	675	1,665
宇宙地球物理学科 (地球物理分野) (天文地球物理学科第二)		11	49	625		

次のページに続く→

設置区分 学 科	東 北 帝 国 大 学		東 北 大 学			
	理科大学	理 学 部	理学部(旧制)	理 学 部 (新 制)		合 計
	大3. 7～ 大7. 12	大8. 6～ 昭22. 9	昭23. 3～ 昭29. 3	昭28. 3～ 平9. 3	平9. 4～ 平24. 3	
化 学 科	42	500	169	1,481	1,037	3,691
化 学 第 二 学 科				1,004		
地圏環境科学科 （地質分野） （地質学古生物学科） （地学科地学第一）		165	57	477	433	1,374
（ 地 質 学 科 ）	20	14				
地圏環境科学科 （地理学分野） （地 理 学 科） （地学科地理学）			34	373		
地球惑星物質科学科		196	85	623	274	982
地球物質科学科 （岩石鉱物鉱床学科） （地学科地学第二）						
生 物 学 科		193	74	1,160	656	1,890
計	120	1,901	726	10,306	4,873	15,905
合 計	17,926					

4 論文提出による博士の学位授与者

(1) 学位令（大正9年7月6日勅令第200号）に基づくもの 944人

(2) 学位規則（昭和28年文部省令第9号）に基づくもの

年 度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
人 数	16	22	20	21	21	14	17	7
累 計	1,074	1,096	1,116	1,137	1,158	1,172	1,189	1,196
年 度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
人 数	11	6	8	9	7	3	2	3
累 計	1,207	1,213	1,221	1,230	1,237	1,240	1,242	1,245
年 度	平成23年度							
人 数	4							
累 計	1,249							

5 平成23年度修了者及び卒業生進路状況

(1) 大学院修了者

区 分 課 程	修 了 者	進 学 者	就 職 者	日 本 学 術 振 興 会 特 別 研 究 員 等	研 究 員 研 究 生 等	そ の 他
前 期 2 年 の 課 程	250	78	155		0	17
後 期 3 年 の 課 程	73	0	29	11	23	10
計	323	78	184	11	23	27

(2) 学部卒業生

区 分 学 科	卒 業 者	進 学 者	就 職 者	研 究 生 等	そ の 他
数 学 科	42	24	11	1	6
物 理 学 科	67	60	3	0	4
宇宙地球物理学科	43	38	3	1	1
化 学 科	77	68	6	1	2
地 圏 環 境 科 学 科	31	21	8	1	1
地球惑星物質科学科 地 球 物 質 科 学 科	20	17	1	1	1
生 物 学 科	38	31	6	0	1
計	318	259	38	5	16

6 連携大学院方式

連携大学院方式は、国立及び民間の試験研究機関と研究交流・連携を図り、大学院理学研究科に連携・委嘱分野を設置し、その研究機関の研究者を委嘱又は、客員教授として招へいし、研究領域の多様化、豊富化を通じて教育研究の高度化を図る制度である。

専 攻 名	連 携 ・ 委 嘱 分 野	連 携 研 究 機 関 名
物 理 学 専 攻	加 速 器 科 学	日 本 原 子 力 研 究 開 発 機 構
		高 エ ネ ル ギ ー 加 速 器 研 究 機 構
	強 相 関 電 子 物 理 学	日 本 原 子 力 研 究 開 発 機 構
		独 立 行 政 法 人 理 化 学 研 究 所
	量 子 計 測	高 輝 度 光 科 学 研 究 セ ン タ ー
地 球 物 理 学 専 攻	固 体 地 球 物 理 学	N T T 物 性 科 学 基 礎 研 究 所
		独 立 行 政 法 人 理 化 学 研 究 所
化 学 専 攻	分 離 化 学 重 元 素 化 学	独 立 行 政 法 人 防 災 科 学 技 術 研 究 所
		独 立 行 政 法 人 海 洋 研 究 開 発 機 構
地 学 専 攻	地 圏 物 質 循 環 学	独 立 行 政 法 人 産 業 技 術 総 合 研 究 所
		独 立 行 政 法 人 国 立 環 境 研 究 所
	地 球 内 部 反 応	独 立 行 政 法 人 産 業 技 術 総 合 研 究 所
		独 立 行 政 法 人 物 質 ・ 材 料 研 究 機 構
		大 学 共 同 機 関 法 人 自 然 科 学 研 究 機 構 国 立 天 文 台

7 外国人留学生数

(平 24. 5. 1現在)

国 籍	学部学生	大 学 院 学 生		学 部 研究生	大学院 研究生	特 別 研 学 別 究 生	特 別 聴 学 別 講 生	科 等 修 履 生	計
		博 士 課 程							
		前期 2 年 の 課 程	後期 3 年 の 課 程						
韓 国	5	3	1				2		11
中 国	3	19	24			1	1		48
バングラディシュ			6						6
モ ン ゴ ル	1		1						2
エ ジ プ ト		1							1
インドネシア	4	3	4						11
タ イ	2	1	1						4
フ ラ ン ス			1				2		3
アメリカ合衆国		1	2				2		5
イ ラ ン		2	1						3
ド イ ツ							6		6
スウェーデン							1		1
フィンランド						3			3
ルーマニア		1							1
パキスタン			1						1
ネパール		1	1						2
ベトナム	1	2	2						5
マレーシア		1	2						3
メキシコ			1						1
スロバキア	1								1
オーストラリア									
トルコ			1						1
フィリピン			1						1
イタリア									
台湾		1	1			1			3
デンマーク									
リトアニア	1								1
エチオピア		1							1
ブラジル			2						2
ベネズエラ							1		1
ボリビア		1							1
計	18	38	53	0	0	5	15	0	129

科学研究費等

1 グローバルCOE

平成23年度研究拠点形成費等補助金（研究拠点形成費（機関補助））（単位：千円）

プログラム名	採 択 年 度	交 付 金 額	
		直 接 経 費	間 接 経 費
分子系高次構造体化学国際教育研究拠点	平 成 19 年 度	173,433	0
物質階層を紡ぐ科学フロンティアの新展開	平 成 20 年 度	175,111	0
変動地球惑星学の総合教育研究拠点	平 成 20 年 度	225,264	0

※内定額

2 平成23年度科学研究費補助金採択状況

（単位：千円）

研究種目名	件数	交付を受けた研究費	直接経費	間接経費
特 別 推 進 研 究	2	211,640	162,800	48,840
特 定 領 域 研 究	8	65,000	65,000	
特 別 研 究 促 進 費	0	0	0	
基 盤 研 究 (S)	5	254,930	196,100	58,830
基 盤 研 究 (A) 一 般	17	162,240	124,800	37,440
基盤研究(A)海外学術	0	0	0	0
基 盤 研 究 (B) 一 般	30	145,990	112,300	33,690
基盤研究(B)海外学術	3	12,350	9,500	2,850
基 盤 研 究 (C) 一 般	45	71,370	54,900	16,470
挑 戦 的 萌 芽 研 究	25	46,280	35,600	10,680
若 手 研 究 (A)	11	60,710	46,700	14,010
若 手 研 究 (B)	46	74,880	57,600	17,280
研究活動スタート支援	4	6,045	4,650	1,395
学 術 創 成 研 究 費	0	0	0	0
奨 励 研 究	1	600	600	
新学術領域研究(領域提案型)	19	300,950	231,500	69,450
新学術領域研究(課題提案型)	1	8,450	6,500	1,950
小 計	217	1,421,435	1,108,550	312,885
特 別 研 究 員 奨 励 費	67	49,500	49,500	
合 計	284	1,470,935	1,158,050	312,885

※内定額

学術交流

1 研究員等受入れ状況 (平成 23 年度)

種 別	受入者数
民間等との共同研究	0
受託研究員	2
受託研修員	0
学振特別研究員 (P . D .)	12
計	14

2 外国人研究員等受入れ状況 (平成 23 年度)

種 別	受入者数
日本学術振興会	
外国人招へい研究者	1
外国人特別研究員	5
二国間学術交流・その他	16
客員研究員	1
理学研究科・理学部外国人招へい研究者	5
計	28

3 部局間学術交流協定校

協 定 大 学 等	締 結 年 月 日
メルボルン大学理学部(オーストラリア)	1988年 3月 15日 1998年 5月 15日更新
ユトレヒト大学生物学部(オランダ)	1993年 7月 28日 1997年 3月更新
アラスカ大学フェアバンクス校(米国)	1995年 1月 12日 1999年 1月 12日更新
サセックス大学(英国)	1997年 3月 17日
スラナリー工科大学(タイ)	1999年 6月 18日
コペンハーゲン大学(デンマーク王国)	1999年 9月 20日 2007年 8月 22日更新 2012年 8月 22日更新
イリノイ大学シカゴ校(米国)	2000年 5月 1日
チュロンコン大学理学部(タイ)	2003年 2月 14日 2009年 3月 20日更新
ゲッチンゲン大学化学研究科(ドイツ)	2003年 6月 25日
ハイデルベルグ大学化学研究科(ドイツ)	2003年 8月 19日
ヨーク大学(英国)	2004年 7月 19日
中国科学院南海研究所	2004年 10月 4日
ロシア科学アカデミー極東支部	
太平洋研究所	2004年 12月 13日
自動制御処理研究所	2004年 12月 13日
韓国国立公州大学大学院	2006年 2月 1日
蘭州大学(中国)	2006年 9月 8日
上海有機化学研究所・中国科学院(中国)	2006年 10月 12日
中山大学環境科学・工程学院(中国)	2006年 11月 1日
大連理工大化学工学院(中国)	2006年 11月 13日
フランス高等師範学校リヨン校	2006年 12月 8日
ルーバンカトリック大学理学研究科(ベルギー)	2007年 8月 29日
成均館大学自然科学部(韓国)	2007年 9月 11日
ディボネゴロ大学水産・海洋科学部(インドネシア)	2008年 3月 5日
ニュージーランド地質・核科学研究所	2008年 3月 19日
チュロンコン大学経済学部(タイ)	2008年 3月 21日
ロシア科学アカデミーベリヤ支部ソレフ地質学・鉱物学研究所	2008年 11月 7日
カーネギー研究機構地球物理学研究所	2008年 12月 1日
中央研究院地球科学研究所(台湾)	2008年 12月 4日
ビーレフェルト大学共同研究センター(ドイツ)	2010年 7月 23日
中国地質大学(中国)	2011年 4月 29日
リヨン第1大学理工学部(フランス)	2011年 9月 9日
ヴッパータル大学数学自然科学部(ドイツ)	2012年 1月 23日

予 算

1 平成23年度予算額

区 分	金 額	備 考
運 営 費	6,217,565,813 円	
寄 附 金 事 業 費	62,024,712	
受 託 研 究 費	1,047,636,575	
受 託 事 業 費	55,246,514	
施 設 整 備 費	137,573,530	
預 り 補 助 金	497,690,586	
計	8,017,737,730	

機械・器具

(平 24. 3. 31 現在)

資 産 区 分	数 量	金 額	備 考
機 械 及 び 装 置	42	144,206 千円	
工 具 ・ 器 具 及 び 備 品	2,863	8,075,458	
車 両 そ の 他 の 陸 上 運 搬 具	25	55,452	
計	2,930	8,275,116	

備考：本調は、50 万円以上の品目である。

標 本 等

1 標 本

保 存 数	標 本 点 数	タ イ プ 標 本 点 数
古 生 物 関 係	1,129,656	8,710
岩 石 ・ 鉱 物 関 係	276,650	
動 物 関 係		
(生 態 進 化 生 物 学 講 座)	300,000	80

2 実験生物系統保存

種 類	保 存 数
哺 乳 動 物 由 来 の 培 養 細 胞	100 種 以上
ハ ツ 力 ネ ズ ミ	20 系統
ヤ ナ ギ 科 植 物	200 種

学術研究発表誌(○英文、●和文)

- 東北大学理科報告 第 1 集(化学) 年 1 回発行 既刊巻数 81 巻(2004)
- 東北大学理科報告 第 2 集(地質学) 年 2 回発行 既刊巻数 63 巻 2 号(1996)
- 東北大学理科報告 第 3 集(岩石・鉱物学・鉱床学) 年 1 回発行 既刊巻数 17 巻 1 号(1988)
- 東北大学理科報告 第 4 集(生物学) 年 1 回発行 既刊巻数 40 巻 4 号(2001)
- 東北大学理科報告 第 5 集(地球物理学) 年 4 回発行 既刊巻数 37 巻 2 号(2006)
- 東北数学雑誌 年 4 回発行 既刊巻数 64 巻 1 号(2012)
- 東北大学理科報告 第 7 集(地理学) 年 2 回発行 既刊巻数 57 巻 1/2 号(2010)
- 東北大学理科報告 第 8 集(物理学・天文学) 年 3 回発行 既刊巻数 26 巻 1 号(2006)
- ELPH ANNUAL REPORT 2010 年 1 回発行 既刊巻数 1 巻(2012)
- 東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告 不定期 既刊巻数 93 号(1992)
- Tohoku Mathematical Publications 不定期 既刊号数 35 号(2011)

土地・建物

(平 23. 4. 1 現在)

(単 位：㎡)

施設名 区分	土 地	建 物					
		木 造		RC・B・S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
理 学 研 究 科・理 学 部	青葉山地区敷地内	3	3	15,717	62,206	15,720	62,209
地震・噴火予知研究観測センター	〃			1,011	3,115	1,011	3,115
〈 県 内 〉							
惑 星 圏 女 川 観 測 所	▲43,111	172	235	52	52	224	287
惑 星 圏 蔵 王 観 測 所	▲29,319			130	238	130	238
惑 星 圏 川 渡 観 測 所	川渡農場敷地内			61	61	61	61
惑 星 圏 米 山 観 測 所	▲1,600			101	101	101	101
釜 房 地 震 観 測 点	▲144			▲5	▲5	▲5	▲5
川 渡 地 震 観 測 所	川渡農場敷地内						
金 華 山 地 震 観 測 点	12,238			2	2	2	2
若 柳 地 震 観 測 点	▲100			12	12	12	12
蔵 王 火 山 観 測 点	▲492			6	6	6	6
津山広帯地域地震観測点	▲9						
七ヶ宿火山観測点	▲340						
気仙沼総合観測線観測点	▲112						
地球物理学科第二大気境界層観測所(小牛田地区)	▲1,038			19	19	19	19
江 島 地 震 観 測 点	▲100			12	12	12	12
升 沢 地 震 観 測 点	▲4						
大 須 地 震 観 測 点	▲4						
名 足 地 震 観 測 点	▲4						
加 護 坊 山 地 震 観 測 点	▲3						
狐 崎 地 震 観 測 点	▲2						
米 谷 地 震 観 測 点	▲6						
宮 沢 地 震 観 測 点	▲4						
品ノ浦地震観測点	▲5						
大 岳 山 地 震 観 測 点	▲3						
柳 津 地 震 観 測 点	▲1						
筧 岳 地 震 観 測 点	▲6						
旭 山 地 震 観 測 点	▲5						
大 松 沢 地 震 観 測 点	▲3						
宮 戸 地 震 観 測 点	▲2						
須 江 地 震 観 測 点	▲2						
荒 町 地 震 観 測 点	▲9						
焼 石 亦 地 震 観 測 点	▲62						

区分 施設名	土 地	建 物					
		木 造		RC・B・S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
宇 津 野 地 震 観 測 点	▲ 4						
花 山 地 震 観 測 点	▲ 6						
中 埜 地 震 観 測 点	▲ 4						
切留地殻流体地震観測点	▲ 5						
軍沢地殻流体地震観測点	▲ 14						
鬼首地殻流体地震観測地点	▲ 43						
鳴子地殻流体地震観測地点	▲ 30						
川渡地殻流体地震観測地点	▲ 38						
西上野目地殻流体地震観測地点	▲ 10						
花山湖地殻流体地震観測地点	▲ 5						
宮 床 地 震 観 測 点	▲ 14						
岩 入 地 震 G P S 観 測 点	▲ 104						
芋 沢 地 震 観 測 点	▲ 30						
柳 目 地 震 観 測 点	▲ 22						
〈 青 森 県 〉							
深 浦 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
階 上 地 震 観 測 点	▲ 49 735			16	16	16	16
東 通 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
六ヶ所村 G P S 観 測 点	▲ 4						
〈 岩 手 県 〉							
大 東 総 合 観 測 線 観 測 所	▲ 210						
黒 沢 尻 総 合 観 測 線 観 測 点	▲ 200						
松 川 火 山 観 測 点	▲ 36						
岩手火山（松尾）総合観測点	▲ 143			24	32	24	32
岩 手 山 火 山 観 測 点	▲ 465			36	46	36	46
岩手火山（西根）実験井	▲ 14						
三 陸 地 震 観 測 所	5,282			134	346	134	346
三 陸 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
滝 沢 火 山 観 測 点	▲ 100			6	6	6	6
玄 武 洞 観 測 点	▲ 102			12	12	12	12
橋 場 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
遠 野 地 震 観 測 所	▲ 7,674 4,613			247	377	247	377
普 代 地 震 観 測 点	▲ 110			12	12	12	12
釜 石 鉢 山 地 震 観 測 点	▲ 101						
姫 神 地 殻 変 動 観 測 点	▲ 2,596						
宮 古 地 殻 変 動 観 測 点	▲ 854			12	12	12	12

区 分 施設名	土 地	建 物					
		木 造		RC・B・S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
西 根 火 山 観 測 点	▲ 80			6	6	6	6
沢 内 総 合 観 測 線 観 測 点	▲ 35						
鉛 G P S 観 測 点	▲ 5						
山 目 中 G P S 地 震 観 測 点	▲ 2						
本 寺 小 G P S 地 震 観 測 点	▲ 2						
一 関 市 博 物 館 G P S 地 震 観 測 点	▲ 2						
中 野 中 学 校 G P S 観 測 点	▲ 4						
高 倉 山 地 震 観 測 点	▲ 34						
小 山 沢 地 震 観 測 点	▲ 3						
光 興 寺 地 震 観 測 点	▲ 600						
〈 秋 田 県 〉							
秋 田 地 震 観 測 所	1,053			253	337	253	337
仁 別 地 殻 変 動 観 測 点	▲ 1,106			6	6	6	6
田 沢 湖 総 合 観 測 線 観 測 点	▲ 200						
西 木 総 合 観 測 線 観 測 点	▲ 200						
五 城 目 総 合 観 測 線 観 測 点	▲ 100						
本 荘 地 震 観 測 所	▲ 892			165	270	165	270
二 ツ 井 地 震 観 測 点	▲ 1,551			35	55	35	55
秋 田 焼 山 火 山 観 測 点	▲ 133						
大 湯 火 山 観 測 点	▲ 140						
秋 田 駒 ヶ 岳 火 山 観 測 点	▲ 100						
岩 城 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
男 鹿 地 殻 変 動 観 測 点	▲ 1,935			6	6	6	6
男 神 山 観 測 点	▲ 145						
狙 半 内 地 震 観 測 点	▲ 9						
出 戸 地 震 観 測 点	▲ 36						
院 内 地 震 観 測 点	▲ 22						
大 飯 郷 地 震 観 測 点	▲ 22						
百 宅 地 震 観 測 点	▲ 42						
軽 井 沢 地 震 観 測 点	▲ 42						
葛 岡 地 震 観 測 点	▲ 22						
猿 倉 地 震 観 測 点	▲ 44						
大 須 郷 地 震 観 測 点	▲ 14						
二 ツ 石 地 震 観 測 点	▲ 5						
二ツ石地震観測点（御獅子ヶ沢）	▲ 25						
平 野 沢 G P S 観 測 点	▲ 3						
雄 物 川 G P S 観 測 点	▲ 4						

施設名 区分	土 地	建 物					
		木 造		RC・B・S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
新 南 外 G P S 観 測 点	▲ 4						
中 仙 G P S 観 測 点	▲ 4						
〈 山 形 県 〉							
温 海 地 震 観 測 点	▲ 443			35	55	35	55
湯 の 台 火 山 観 測 点	▲ 105						
飛鳥プレート活動総合観測点	▲ 78			6	6	6	6
八 幡 中 継 点	▲ 1						
白 布 火 山 観 測 点	▲ 20						
酒 田 地 震 観 測 点	▲ 100			12	12	12	12
村 山 地 震 観 測 点	▲ 110			12	12	12	12
東 根 気 象 観 測 点	▲ 37						
直 世 地 震 観 測 点	▲ 46						
白 井 地 震 観 測 点	▲ 12						
大 沢 地 震 観 測 点	▲ 12						
北 俣 地 震 観 測 点	▲ 22						
田 沢 地 震 観 測 点	▲ 22						
大 網 地 震 観 測 点	▲ 42						
曲 川 地 震 観 測 点	▲ 22						
加 茂 地 震 観 測 点	▲ 12						
南 山 地 震 観 測 点	▲ 12						
添 川 地 震 観 測 点	▲ 5						
吹 浦 地 震 観 測 点	▲ 6						
下 野 明 地 震 観 測 点	▲ 4						
牛 房 野 地 震 観 測 点	▲ 20						
湯 ノ 沢 地 震 観 測 点	▲ 6						
羽前赤倉地殻流体地震観測点	▲ 20						
向町地殻流体地震観測点	▲ 5						
田 麦 野 G P S 観 測 点	▲ 2						
湯 野 沢 G P S 観 測 点	▲ 12						
〈 福 島 県 〉							
惑 星 圏 飯 舘 観 測 所	▲ 24,092			102	150	102	150
旧開発地理学研究所（猪苗代地区）	990						
北阿武隈地殻変動観測点	▲ 25						
い わ き 沖 地 震 観 測 点	いわき沖 プラットフォーム内						
安 達 太 良 火 山 観 測 点	▲ 192						
磐 梯 火 山 観 測 点	▲ 788						
微 温 湯 火 山 観 測 点	▲ 220						

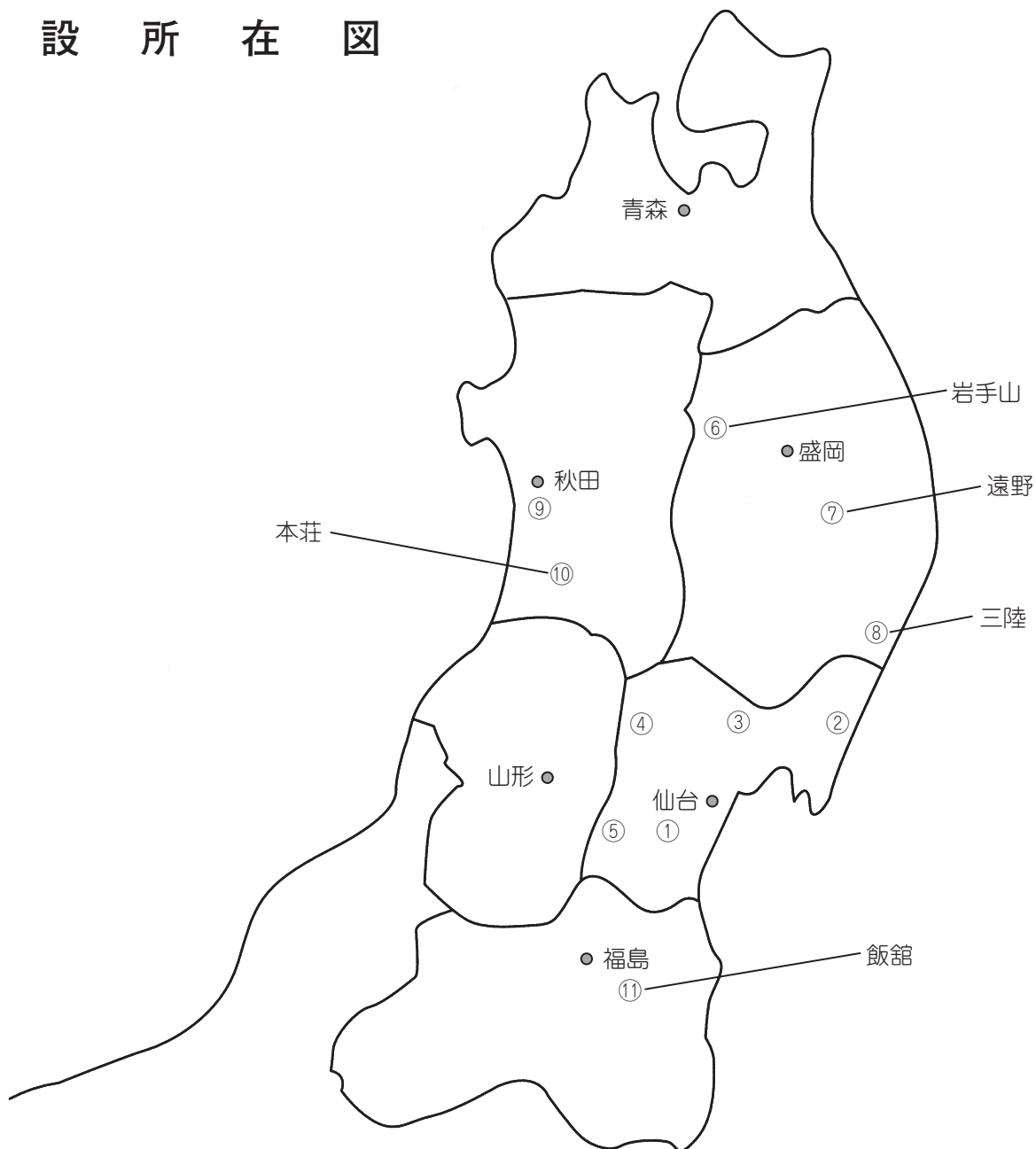
施設名 区分	土 地	建 物					
		木 造		RC・B・S 建		計	
		建	延	建	延	建	延
南 吾 妻 火 山 観 測 点	▲ 22						
い わ き 地 震 観 測 点	▲ 251						
金 山 地 震 観 測 点	▲ 26						
南 会 津 地 震 観 測 点	▲ 260						
吾 妻 中 学 校 中 継 点	▲ 1						
古 殿 中 継 点	▲ 1						
三 程 地 震 観 測 点	▲ 1						
〈 新 潟 県 〉							
新 発 田 地 震 観 測 点	▲ 169						
佐渡プレート活動総合観測点	▲ 133			6	6	6	6
〈 栃 木 県 〉							
八 溝 地 震 観 測 点	▲ 25						
〈 福 井 県 〉							
土 合 皿 尾 震 観 測 点	▲ 6						
文 室 震 観 測 点	▲ 12						
城 有 震 観 測 点	▲ 6						
中 山 震 観 測 点	▲ 6						
五 幡 震 観 測 点	▲ 30						
中 手 震 観 測 点	▲ 22						
柿 ケ 原 震 観 測 点	▲ 4						
鹿 俣 震 観 測 点	▲ 6						
計	▲ 125,098 24,911	857	920	▲ 5 21,875	▲ 5 74,312	▲ 5 22,732	▲ 5 75,232

備考：1 ▲印は借入数量（含無償）を示す。

2 理学研究科・理学部及び地震・噴火予知研究観測センター（青葉山地区）は、青葉山地域敷地（工学部、薬学部等含む。）763,934㎡内に含まれる。

3 川渡地震観測点及び惑星圏川渡観測所は、農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター18,542,442㎡内に含まれる。

施設所在図



- | | |
|--|---|
| ①青葉山地区
巨大分子解析研究センター
大気海洋変動観測研究センター
地震・噴火予知研究観測センター
惑星プラズマ・大気研究センター
自然史標本館 | ④惑星圏川渡観測所
⑤惑星圏蔵王観測所
⑥岩手火山(松尾)総合観測点
⑦遠野地震観測所
⑧三陸地震観測所
⑨秋田地震観測所
⑩本荘地震観測所
⑪惑星圏飯舘観測所 |
| ②惑星圏女川観測所
③惑星圏米山観測所 | |

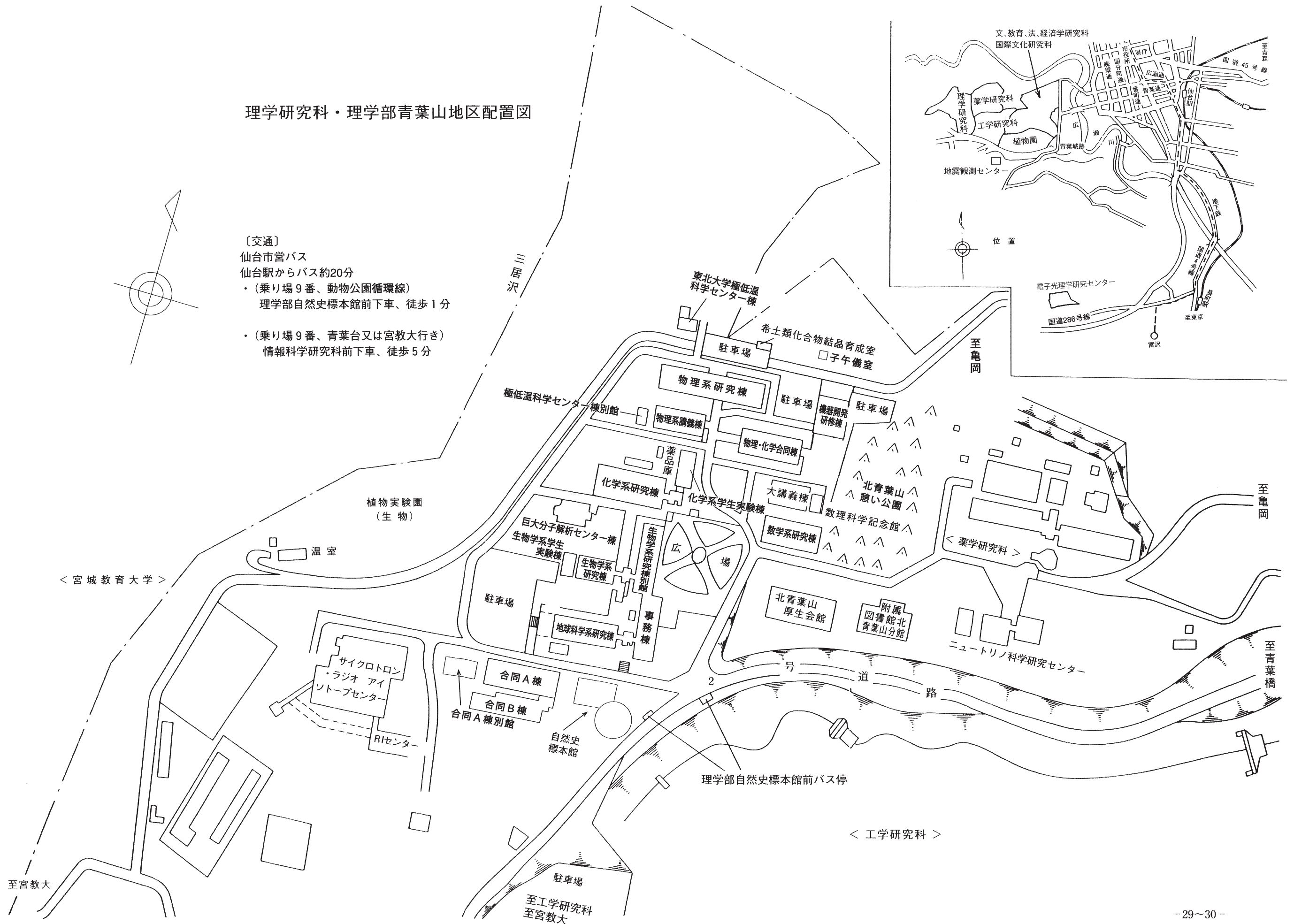
理学研究科・理学部青葉山地区配置図

〔交通〕

仙台市営バス

仙台駅からバス約20分

- ・(乗り場 9 番、動物公園循環線)
理学部自然史標本館前下車、徒歩 1 分
- ・(乗り場 9 番、青葉台又は宮教大行き)
情報科学研究科前下車、徒歩 5 分



東北大学大学院理学研究科
東北大学理学部

〒 980 - 8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6番3号

☎ 市外局番 0 2 2 (ダイヤルイン)
東北大学理学研究科・理学部

研究科長・学部長室	7 9 5 - 6 3 4 2
事務部長室	7 9 5 - 6 3 4 3
総務課長	7 9 5 - 6 3 4 4
経理課長	7 9 5 - 6 3 5 4
経理課課長補佐	7 9 5 - 4 5 8 1
専門職員（物理系担当）	7 9 5 - 4 5 8 0
専門職員（化学担当）	7 9 5 - 6 6 0 1
専門職員（総合学術博物館担当）	7 9 5 - 6 7 6 8
庶務係	7 9 5 - 6 3 4 6
人事係	7 9 5 - 6 3 4 8
学部教務係	7 9 5 - 6 3 5 0
大学院教務係	7 9 5 - 6 3 5 1
学生支援係	7 9 5 - 6 4 0 3
財務運用係	7 9 5 - 6 3 5 2
経理係	7 9 5 - 6 3 5 3
用度係	7 9 5 - 6 3 5 5
施設管理係	7 9 5 - 6 3 5 8

FAX 総務課（庶務・人事）	7 9 5 - 6 3 6 3
総務課（教 務）	7 9 5 - 6 3 4 5
経理課	7 9 5 - 6 3 6 4